

118円台まで米ドル高・円安が進んだ背景

原油高より米金利上昇が米ドル円上昇の主因

2022年3月15日

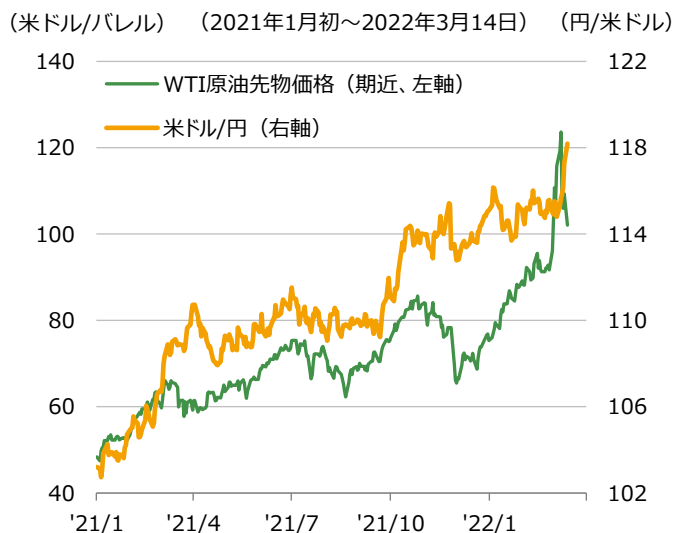
供給懸念による原油高騰は、米金利低下と円高を招くリスクも

米ドル円が年初来高値を更新し、2017年1月以来の118円台に上昇しました。原油高が円安の原因との見方もありますが、事実は異なるでしょう。ウクライナ侵攻後の供給懸念で3月7日頃にかけて原油など商品価格が急騰しましたが、その局面では円安は進まず、円に対し下落する通貨も多くありました。ウクライナ情勢を巡る懸念が一服し、原油が反落すると、米ドルを含め多くの通貨が対円で上昇するようになりました。リスクオフの株安が一服し、各国金利が上昇したことが、円安の主因と言えます。

なかでも、FOMC（米連邦公開市場委員会）を控えた米国は、金融引き締め姿勢の強まりを警戒して金利が上昇しやすい状況にあると見られます。米金利上昇による日米金利差拡大は米ドル高・円安に働きます。また、米金利が上昇基調にあり、低下しても限定的であると、市場がリスクオンの局面では円売り・米ドル買いが強まりやすく、リスクオフの局面では円買いよりも米ドル買いが強まりやすくなります。

供給懸念が一服したからこそ原油安に振れて米金利と米ドル円が上昇したのであり、再び原油高に振れれば米金利と米ドル円が下落する恐れがあります。原油価格が平常水準にある場合、原油高ではインフレ懸念と金融引き締め観測から米金利と米ドル円が上昇、原油安では米金利と米ドル円が下落しやすいです。一方、今のように原油価格が高水準にある場合、原油高では景気減速懸念から米金利と米ドル円が下落、原油安では米金利と米ドル円が上昇しやすいのです。米金利動向こそが米ドル円には重要です。

原油価格と米ドル円



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

原油価格と米5年国債金利



(出所) リフィニティブより大和アセット作成

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。